

# 現代の駿州往還 「中部横断自動車道」開通

中部横断自動車道開通の  
「交通」「産業」「生活」に  
もたらす経済効果

山梨大学 工学部

武藤 慎一 准教授



## 中部横断自動車道の開通

中部横断自動車道の山梨・静岡間がいよいよ開通します。山梨と静岡を結ぶ道は駿州往還と呼ばれ、昔から人の往来、物の輸送に重要な役割を果たしてきました。武田信玄は、海を目指して領土を拡大させたと言われています。その信玄の想いが駿州往還から中部横断自動車道へと引き継がれ、今、正に実現しようとしているのです。

## 交通への影響

中部横断自動車道の開通は、旅客および貨物交通に大きな効果をもたらすと期待されています。私の研究室の試算では、自家用車やバスなどの旅客交通は山梨から静岡が34%、静岡から山梨が40%増加し、トラック輸送による物流は山梨から静岡が31%、静岡から山梨が32%増加するという大きな効果が出るという結果を得ています。

中部横断自動車道の開通によって人も物もこれまで以上に山梨・静岡間での行き来が進むと期待できます。

## 期待される経済効果

人や物の行き来が進めば、地域経済も活性化します。山梨には高い技術を持った製造業が多く存在します。また、良好な気候により魅力的な農作物や果樹もあります。そして、豊富な観光資源を有する山梨では観光産業にも大きな期待が寄せられています。

私の研究室の試算では、中部横断自動車道の開通によって山梨県内の産業の生産額が年間約377億円増加するとの結果を得ています。電子・電気機械部門の増加が最も大きく、加えて飲食料品部門も増加しています。また、サービス業では観光産業の増加が最も大きく、加えて金融や不動産部門も増加しており、多様な経済効果が期待されます。

こうした経済の活性化は、最終的に山梨の県内所得を実質的に年間135億円増加させます。これは、一世帯当たり年間4万1400円に相当します。これらはあくまでも試算ですので、これを現実のものとするには地域が一丸となり、中部横断自動車道の有効活用に取り組むことが大切になります。

高井彬名さん（工学部土木環境工科学部4年）  
中部横断自動車道ができることで、山梨県から静岡県に短時間で行くことができるようになります。静岡県には世界遺産である富士山や三保の松原など観光地も沢山あるので、行きやすくなるのはとてもありがたいことだと思います。また山梨県にはゆるキャンの聖地もありますので、静岡県からより多くの観光客が来ることも考えられます。そうすると山梨県は静岡県からのお客さんを、静岡県は山梨県からのお客さんをより多く迎え入れることができますので、どちらの県にとっても大きなメリットがあると思います。

奥脇崇太さん（工学部土木環境工科学部4年）

山梨県と静岡県間で1時間の短縮というのはものすごく大きいことだと思います。そうすると人や物の移動が活発になり、山梨と静岡県間にとって産業の活性化が見込まれると思います。また救命医療の観点からも高速道路の事故などにおける救命医療の救命率の向上も期待できます。そしてさらに様々な企業が山梨県に注目することによって企業立地が進み、それによって住む人の増加や雇用拡大なども進み、この山梨県に恒久的な経済効果や恩恵をもたらすと考えています。

遠山寛人さん（工学部土木環境工科学部4年）

中部横断自動車道が開通して僕自身もよく利用するようになりましたが、開通する前と比べて所要時間が30分以上も短縮されたので、とても驚いています。このように感じている人はとても多く、今後静岡県と山梨県の往来がさらに増えて行くと思います。特に静

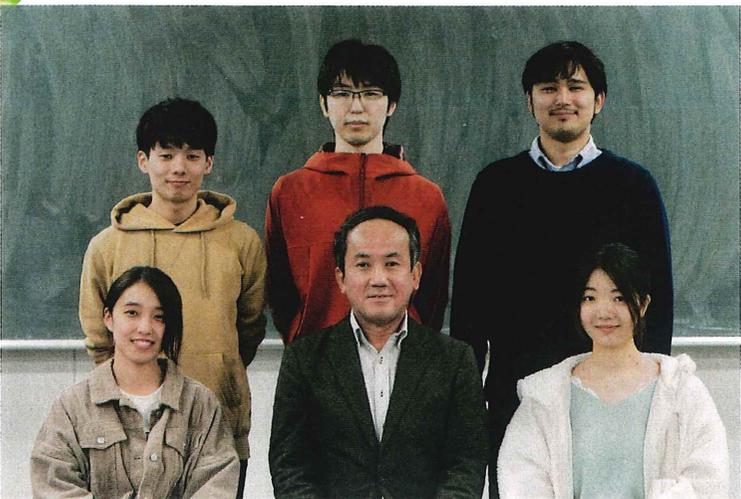
岡県中部や西部の方、あるいは愛知県東部の方などにとっては、かなり利便性が高まるのではないかと感じています。全線開通したら両親の家までより早く行くことができますので、さらに多く利用するようになりますし、両親も喜んでくれるだろうと思います。

川原裕美子さん（工学部土木環境工科学部4年）

特に物流の面では、静岡県と山梨県間の時間距離が短縮されることで、山梨の産物、静岡県で生産される物の運送の時間短縮によるメリットが期待できるのではないかと考えます。また、輸送する大型の貨物車両による一般道の渋滞の緩和にもつながるのではないかと考えます。

山田歩さん（大学院医工農学総合教育部工学専攻修士1年）

みなさんがお話されたように、静岡と山梨の間の時間距離が短くなることで心理的ハードルが下がり、観光や、あるいは特産品などの交易が活発になると期待しています。また、中部横断道は一般道に比べて丈夫に造られているので、豪雨災害や台風などの災害時においても国道52号線などの一般道に対する代替道路としての効果が期待できます。そういった意味でも開通がとても楽しみです。



上段左より、遠山寛人さん、奥脇崇太さん、山田歩さん  
下段左より、高井彬名さん、武藤 慎一准教授、川原裕美さん



やまなし観光推進機構 理事長  
仲田 道弘 氏

### 現在の山梨観光の実情

やまなし観光推進機構は県や市町村に属する観光協会のほか、民間の観光関係団体など、およそ320の企業・団体から構成されている公益社団法人です。四季折々の観光情報を構成員の皆さまからお寄せいただき、それを外に発信していくのが我々の役割です。

現在はウェブでの情報発信が主流となっており「富士の国やまなし」で検索すると山梨の観光にまつわる様々な情報をご覧いただけます。毎月ウェブマガジンの特集を6本ずつお届けし、アクセス数は年にページビュー1100万回、メルマガ会員数は1万3千人

所と少なく、県内での滞在時間も短くなりがちで、結果として宿泊客より日帰り客が多くなっているというのが現在の山梨観光の実情です。

### 「ワイン県山梨」による挑戦

この状況を打開するために2018年より「ワイン県やまなし」と銘打った食のキャンペーンを本格化させました。食中酒であるワインと食事を合わせることで、山梨でゆっくりした時間を楽しんでいただく、という狙いです。ワイン県の副知事として日本ソムリエ協会会長の田崎真也さんと作家の林真理子さんにご協力いただいています。

山梨は日本ワイン発祥の地であり、その生産量やワイナリー数は日本一を誇ります。また日本固有のぶどうで作られた甲州ワインは魚介類との相性がよく、海外からも注目を集めています。このワインと食の魅力なマリージュを提供することで少しでも多く、そして長く山梨を楽しんでいただきたいのです。

食の素材となる名産品は県内各地にありますが、今後静岡との連携をさらに深くできれば、清水港の魚介類と山梨の山の幸をしてワインを合わせて食卓に並べることも夢ではあ

## 中部横断自動車道で

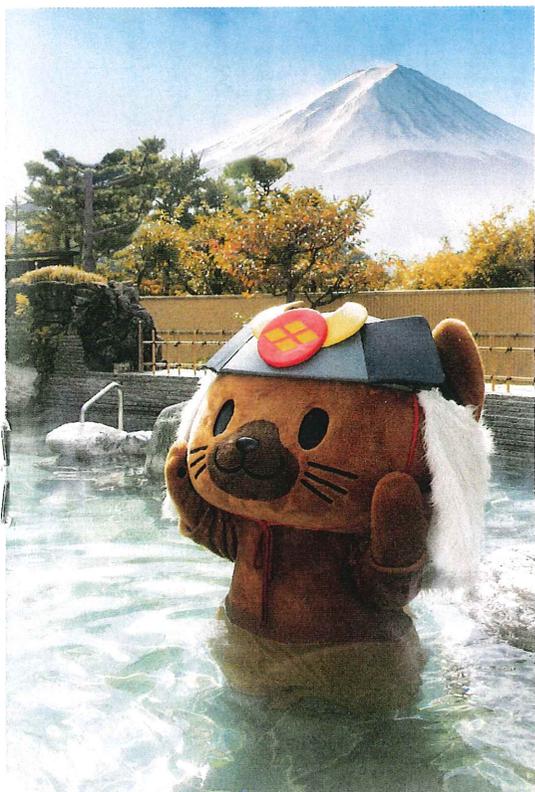
## 山梨の観光に付加価値を

山梨県や市町村の観光協会、そして民間の観光団体と連携し国内外からの観光客の増加と優れた産品の浸透を図っているやまなし観光推進機構  
今回は理事長の仲田道弘さんに  
中部横断自動車道の開通による山梨観光への影響を伺った

ほどです。

山梨を訪れる観光客について最近のデータをご紹介しますと、首都圏からのお客様が6割と多く、次いで静岡、そして長野県の順となります。観光の目的は「自然景観の鑑賞」が最も多く、うち半数が富士五湖に集中しています。

年代では50代、60代の方が多いものの、富士山周辺では若いファミリーが多く、武田信玄などの歴史遺産を楽しめる甲府盆地と、景色やアクティビティを楽しむ富士周辺ではお客様の層が大分



温泉で寛ぐ武田菱丸  
「富士の国やまなし」観光キャラバン隊長

りません。実際、このプランは清水の商工会議所の皆さまとも共有させていただいています。静岡と連携することで双方の地域価値を3倍、4倍と大きくし、お互いにそれを広範囲に利用できるようなるわけです。そのためにももちろん新鮮な食材を短時間で確実に運ぶ必要があります、それを可能にしてくれるのが中部横断自動車道です。

山梨を訪れるお客様に1食でも多く食事をさせていただき、そして1泊でも多くお泊まりいただくことで山梨の観光全体を変えていく契機にしたいと考えています。

### 山梨観光の未来を目指して

山梨県の方針としても、観光客の量より質を求める動きが加速しています。インバウンドに代表される観光客の一時的な増加に一喜一憂するのではなく、一人ひとりの滞在時間をいかに増やし、いかに満足度を高め、いかに観光消費を増やすのか、という視点に立ち、より付加価値が高い優れたサービスに転換するよう、観光業界に働きかけています。

ワインの次の一手は温泉を考えています。山梨県には300を越える源泉があり、国内に10種ある泉質のうち9つが存在し「温泉王国」とも言われています。これを多くの観光

客に知っていただくため山梨の百名湯を紹介する手帳を作り、温泉各施設や高速道路のSAなどで配布しています。利用量に応じて宿泊券が手に入るなどの特典もあり、既に多くの方からご好評をいただいています。我々は入浴という行為が滞在時間の延長と宿泊、そして食事に繋がっていくと期待しております。

また、2018年は甲府開府500年、2020年は武田信玄生誕500年の年にあたり、甲府盆地の歴史遺産と観光を結びつけ、観光資産のさらなる有効利用を考えております。こうした文化施設への訪問と自然景観への観光を結びつけるにも道路が大きな役割を果たします。県内の観光地点間の移動の短縮はもちろんですが、いずれは東京からのお客様が静岡から中部横断自動車道を通り山梨へと周遊ができるようになり、中京圏のお客様にも山梨で楽しまれた後に東京方面に向かう、あるいは富士山方面に向かう、という動きがスムーズにできるようになります。実際、中京圏のお客様に対する期待は大きく、私どもも名古屋に今年から情報拠点を設けて活動を開始しています。

このように山梨の観光を質の高いものにして行くために、中部横断自動車道は欠かすことのできない重要な道路である、と考え大いに期待しています。



店舗外観

シャトレレーゼ



株式会社シャトレレーゼホールディングス  
株式会社シャトレレーゼ  
代表取締役会長  
齊藤 寛氏



株式会社シャトレレーゼ  
代表取締役社長  
古屋 勇治氏

# お菓子で日本の魅力を 世界に伝えたい

素材にこだわった安心なお菓子でお客様に笑顔をお届けするシャトレレーゼ  
鮮度が命のデリケートなお菓子を迅速に運ぶ  
道路整備に期待が高まります

モットーはお客様第一

齊藤・シャトレレーゼは今年で創業67年を迎えます。昭和29年、山梨県甲府市で今川焼き風菓子店の「甘太郎」をスタート。10年後には同市に大和アイス株式会社を設立し、アイスクリーム業界に参入。昭和42年に株式会社シャトレレーゼに社名を変え、スーパーなどでシュークリームの販売を始めました。その後当時は珍しかったフランチャイズのシステムを作り、首都圏を中心に洋菓子専門店を展開。現在は日本全国に550店舗を展開しています。4年前からは海外に進出し、現在

85店舗、今期中に100店舗を計画。他にホテルやゴルフ場の事業も手掛けています。古屋・シャトレレーゼがこだわっているのが昭和60年からスタートした「ファーム・ファクトリー」。卵や牛乳、果物など、お菓子の材料を地元の契約農家から直接仕入れて、その生産地でお菓子作りを行う素材重視の工場システムです。契約農家→自社工場→自社配送→全国の店舗へダイレクトに届けるという、問屋を通さない方法は当時の常識を覆す流通革命といわれました。我々のモットーはお客様第一。無駄な流通を省いてコストを削減したことで、その分をお客様に還元し、お値打ち価格で商品を提供できるようになりました。

## 作り立ての美味しさを支える道路

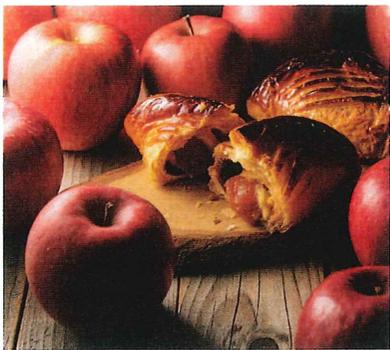
最近では安全意識の高まりから、その商品がいつどこで誰により作られたのか、原材料の調達から生産、消費までの過程を可視化するトレーサビリティが重視されており、生産農家の顔が見えるシャトレレーゼの安心安全なお菓子が喜ばれています。齊藤・大事な原材料を作ってくれる契約農家は当社の大切なパートナー。農作物の価格は天候に左右されがちですが、我々は相場に関係なく一定の価格で買い取っています。農家の方には経営の心配をせずに、おいしい卵や牛乳を作ってほしいという思いからです。苺も大きさに関わらず、畑ごと買い取り、規格外のもはジャムやピューレに加工して使っています。

全国のフランチャイズ店も大切なパートナーです。一番重要なのは、お客様第一というシャトレレーゼの精神を共有できること。当社ではワイナリー事業も行っていますが、フランチャイズの皆さんには現場に来て、素材のこだわりについての学習や製造ラインの見学をしてもらいます。我々のもの作りへのこだわりを共感してもらおうことがパートナーシップに大切だと考えるからです。今後はアジアのフランチャイズの皆さんも現地に招待したいですね。アジアでは日本と言えば富士山と北海道が人気ですが、当社はどちらにも工場や系列のホテルがあるので、こういうところで商品を作っているんだというのを見てほしいと思います。

古屋・鮮度が命のお菓子を全国に届けるために道路の役割は非常に重大。もともとは山梨の3つの工場で作った商品が夜中に全国に配送し、翌日販売するという形をとっていましたが、生菓子ではできるだけ作り立てをお客様に提供したいというところで、北海道と神戸、九州に工場を作り、作った当日に配送、販売までできる仕組みを構築しました。高規格道路が整備されているからこそ、デリケートなお菓子を安全に迅速に運べるのです。さらに殆どの店舗では、特別な指導を受けた「マスター」が店内で生クリームを絞り、フルーツをのせたり、パイ類はオーブンで焼いたりして、出来立て、焼き立ての商品を提供しています。齊藤・現在、アジアへの輸送は、山梨の工場で作った商品を横浜港と静岡の清水港から半々で出荷していますが、中部横断道が開通してアクセスがよくなれば、山梨工場に近い清水港から全て運べるようになります。1日に2〜3往復できるので、時間と費用の削減につながり、非常に期待しています。今後は海外店舗数を大幅に拡大し、5年後に店舗数は日本を上回る予定なので、さらに清水港から送るコンテナ数も大幅に増えそうです。今後もシャトレレーゼのお菓子を通して、日本の良さを世界に発信していきたいと願っています。



卵や牛乳、果物、小豆などお菓子の材料は契約農家から直接仕入れているので新鮮で安心。



オーブンで焼き立てのアップルパイを提供する店舗もふえている。



南アルプス甲斐駒ヶ岳の麓にある白州工場。日本名水百選の水がおいしいお菓子を作る。



シャトレレーゼ専用の10トントレーラー約100台が元且も休みなしで毎日稼働している。